東中だより

No.8　　令和２年１月８日　　伊丹市立東中学校長　　垣　内　　修

新年　あけまして　おめでとうございます

本年も　どうぞ

よろしくお願い申しあげます

さて，１月８日より３学期がスタートしました。生徒の皆さんの明るく元気な顔に会えたことをたいへんうれしく思います。

始業式では「３学期は短くあっという間に過ぎていきます。１日の計は朝にあり。さあ、今日は◯◯を頑張るぞ！という気持ちを持って、毎日をがんばりましょう。」という話をしました。

３学期はそれぞれの学年のまとめの学期であるとともに、卒業・進級という新しいステージへの準備をする学期です。目標をもち，笑顔で学年末を迎えられるよう、教職員一同力を注いでまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3学期　校長式辞より

みなさん、おはようございます。令和２年、２０２０年の新しい年を迎えました。そして、今日から３学期が始まります。こうしてまた、皆さんの明るく元気な顔に会えたことを、大変うれしく思います。

さて、２学期の終業式では、「１年の計は元旦にあり」という言葉を紹介しました。「２０２０年はこんな年にしたい」、「これを目標にしたい」というものを持ち、その計画を立てて欲しい、という話をしました。

実は、そもそもこの「１年の計は元旦にあり」という言葉の前には、こんな１行があります。それは、「１日の計は朝にあり」です。１年の計は元旦で、１日の計は朝なのです。つまり、「１日の計画は朝のうちに立てるのがよい」ということで、「１年の計は元旦にあり」と同じく、「物事の計画は早いうちに立てるのがよい」という意味です。

これは、中国の明の時代、官僚で学者であった馮應京（ひょうおうきょう）という人物が、中国の伝統行事やしきたりなどをまとめた書物にある「四計（しけい）」という項目の中に収められた説話で、四計とは、四つの計画を意味し、漢数字の四（よん）に計画の計（けい）と書いて「しけい」と言います。この「四計」のはじめの２つが、「１日の計は朝にあり」と「１年の計は元旦にあり」で、何事もはじめが肝心で、１日の始まり、１年の始まりにしっかりと目標や計画を立てることが大切であるという意味だそうです。

３学期は短く、１月から３月まで、あっという間に過ぎて行きます。昔から、「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」と言われます。３年生にとっては、これまでの人生の最大の上り坂となります。自己の夢に向かって、この坂をどう上るか。残された時間を大切に、取り組んでほしいと思います。１・２年生は、３年生の先輩の姿をしっかり見つめながら、先輩になる、また、最高学年になる準備を進め、勉強や部活動に取り組んでいきましょう。

「１日の計は朝にあり」。一日一日をたいせつに過ごしてください。朝を気持ちよく起きて、朝ごはんをしっかり食べて、「さあ、今日は◯◯を頑張るぞ！」という気持ちを持って、毎日登校して欲しいと思います。暖かくなるのはまだ先ですが、この寒い時期の一日一日の積み重ねの努力が、やがて４月の春に結びつきます。

３学期も皆さんと一緒に頑張っていきましょう。